

FUNCTION

VOL.3

普通にやってきたこととはいえ
結果が認知されてきたことは、
素直に嬉しいですね。

Contents

患者さまへ	Message
杉元の常識	Opinion
杉元の歴史	Background
お知らせ	News
杉元が答える	Communication

患者さまへ

Message

こんにちは。杉元敬弘です。

今号は、1・2月号ということですが、まずは私の昨年の活動についての振り返りと、今年の抱負についてお話ししたいと思います。

昨年は、私にとって大変刺激的な一年でした。これまでも、月に1、2回は講演会や勉強会などに参加してきましたが、昨年は、おつきあいのなかった、国内の権威ある団体にお声をかけていただき、素晴らしい先生方との出会いもありました。

特に、奈良県立医科大学口腔外科学講座と奈良県歯科医師会との共催でおこなわれる学術大会「奈良臨床歯科医学大会」では、現在の歯科業界の流れを感じて視野を広げることができましたし、かなり有意義な時間を過ごすことができたと思っています。

私は「咬合」をテーマに、臨床を楽しみながら、当然だと感じることも必要だと感じることを普通に行ってきたつもりです。その結果として生まれた「画像診断」をはじめとする自分の方法論が、歯科業界に本格的に必要なとされ始めていること、より認知されてきたということは、非常に嬉しく思います。

今年も、そのような流れの中で、大学機関などと協力し合って新たな取り組みを行う予定もあり、「自分の治療を発信していく年」にもなりそうです。

そのような私の活動が、当院にご来院いただいている患者さまはもちろんのこと、これからお会いする患者さまに還元できるように引き続き頑張っていきたいと思えます。

杉元敬弘



噛み合わせの診断と治療は、 良し悪しを判断する明確な基準と 着地点がなければできないはずです。

Opinion

杉元の常識 【咬合の診療】

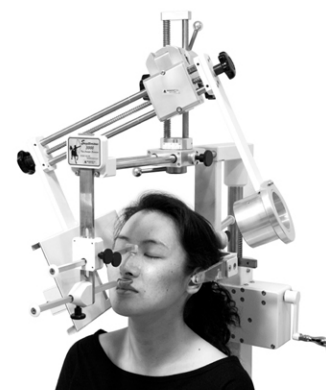
「咬合なくして歯科治療はない」と断言する杉元氏。では、実際にどのように咬合の診療を行うのか。今回はそこに焦点を当てる。

——噛み合わせの良し悪しは、具体的にどのようにして判断されているのでしょうか？

噛み合わせの良し悪しは、一見すればおおよそわかります。また、治療法は多様ですし、どの患者さまにどのような治療を行うかはケースによって違います。必要だと感じた場合は「サジタリウス3000」(写真①)という機器を用いた画像診断をしています。

——「サジタリウス3000」とは？

日本を代表する歯科医師といっても過言では



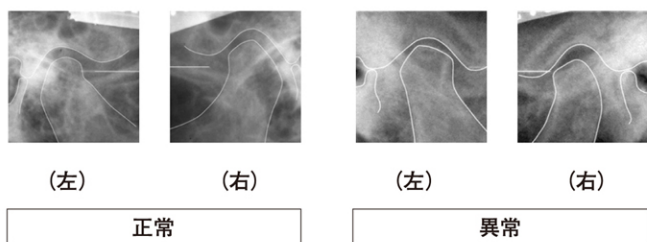
▲サジタリウス3000での撮影(写真①)

ない、寿谷先生が考案された顎関節の規格撮影装置です。

——その画像診断について教えてください。

画像診断では、顎の関節が正しい位置にあるかどうかを診ることが出来ます。まず、画像を見てください(写真②)。「サジタリウス3000」で撮ったものです。これで、左の患者さまには問題がなく、右の患者さまは異常があることが具体的に判断できます。

——左の患者さまは、顎関節が正しい位置にあり、右の方は正しい位置にない？

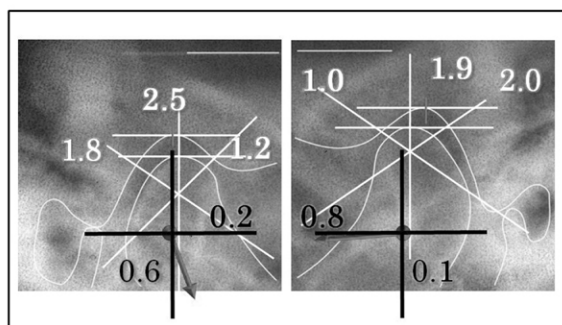


▲サジタリウス3000で撮影したX線画像(写真②)

上下の骨を見てください。左の方は骨と骨の間に隙間があります。右の方は、隙間がほとんどありません。身体の関節のほとんどが同じですが、骨と骨が近づき過ぎると、必ずなんらかの問題が起こってくるのです。

——では、骨と骨が近づいた場合、どのように治療の方向性を決定つけられるのですか？

画像を用いて、今ある位置と適正な位置とのズレを計測します(写真③)。そして、一般的に「被せ」などの補綴物を作る際に用いられる「咬合器」(写真④)という機器で、実際にどのように噛むのが最適かということをしミュレーションします。



▲トレースをして左右の移動量を測る(写真③)



▲咬合器。サジタリウス3000のX線画像と連動させてトレースを行う(写真④)

——噛み合わせの問題と同時に、歯や歯茎になんらかの問題がある場合はどのように治療をされるのでしょうか？

「サジタリウス3000」を用いた診療は、症状の程度に関係なく、咬合器と画像を使って、ほぼ同じパターンで行っています。歯や歯茎に問題がある場合についても、基本は同じ治療法で、ほかの治療と並行して行います。私が「噛み合わせ」を軸にして、すべての治療を行うべきだと言っているのは、このような治療姿勢があるからです。繰り返しですが、虫歯一本であろうと「噛み合わせ」の診断なくして治療はありえないのです。

——それにしても、顎の位置のズレを数値化して適正な位置に移動させるというシニアな治療ですから、ここで求められる補綴物のクオリティは相当なものでしょうか。

それはサジタリウスを用いた治療に限ったことではありませんが、やはり、しっかりと適合する補綴物は必要不可欠ですね。私の画像診断は、技工士の協力がなければ実現化できなかったとすら思っています。

——では次回は、共に画像診断を確立されてきた歯科技工士の重村宏先生をお招きし、技工士の視点を含めながら咬合診断についてインタビューをさせていただきたいと思えます。ありがとうございます。

Background

杉元の歴史

— 大学卒業後 —

大学卒業後、四国を離れた杉元氏は京都の歯科医院に就職。大学の就職説明会で「歯科医になれば本質的な勉強ができる」という言葉に感銘を受けた師のもとで働くようになった。そして、師からあることを教わった。

「まずは、制約がある中で、より多くの患者さまを診せてもらうということ。それから、1日に何十人も患者さまを診られるシステム、技術を持てば、歯科医院としての経営は成り立つが、個人の歯科医として考えた場合、自分が没頭できるテーマを探して、仕事に対するモチベーションを向上していくべきだということを教わりました」

杉元氏は「快適に噛める歯、話せる歯」など、人間が生活をしていく上で欠かすことのできない身体の一部としての「機能」に目を向け、「咬合」を追求したいと考え、大学にいる歯科医から情報収集を始めた。

しかし、その結果、彼はある結論に至った。「大学には理屈がある。理屈としては正しいかもしれない。ただ、それを具現化できる場ではないということを感じました」

大学の歯科医は1日に数名の患者を診ているが、臨床では毎日何十人もの患者を診る。その頃の杉元氏にとって、その技術の差は歴然としており、彼は、歯科には臨床が必要であるということ、歯科の主導は臨床に

本質的な答えを探して、
大学から臨床へ、
国内から海外へ。

あるということに確信を持つこととなった。

その後、彼は多くの患者の診療に没頭しながらも、週に一度は国内の勉強会などに参加するようになった。しかし、そこには、彼の求める満足はなかった。どの勉強会に出ても「答え」という答えが見つからなかったのだ。「誰かが本当のことを知っているはずだ」と思った彼は、ついには多額の費用をかけて国外へも足を向けるようになった。さまざまな場所へ出かけた杉元氏は、必然的に数多くの資格を取得したが、目的はあくまで「答えを見つけること」。「答え」が見つからない、悶々とした日々が続いた。

そして、師のもとで働き始めて5年後。1997年、杉元氏は29歳で、現在の「スギモト歯科医院」、自分の歯科医院を開業した。

(続く)

——噛み合わせの診断は、医師が患者さまの顎を触って診断する「触診」が一般的ですが、杉元先生が「サジタリウス3000」を用いた画像診断をされるのはなぜですか？

噛み合わせの良し悪しを客観的に判断するには、きちんと画像を診て、ズレを計測するほうがより正確な診断と治療が行えるからです。触診は、手で触るだけですから、医師や患者さまの感覚だけが頼りになります。でも、それでは具体的な治療の着地点がありませんし、医師の治療も曖昧になります。たとえば、噛み合わせで困っておられるひとりの患者さまがいらしたとしても、診療が、医師や患者さまの感覚によって異なるという問題が起こってくるということです。つまり触診をするということは、診断基準を持たないまま、なんとなくで治療を行うことになるわけです。

① アンケートのご協力をお願いします!

スギモト歯科医院では、「より満足していただける医院」を考えるために、患者さまにアンケートのご協力をお願いしております。ご協力いただいた方には歯ブラシ1本を進呈させていただきます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。



② お手紙をお待ちしています!



院内新聞『FUNCTION』では、通院されている患者さまから、杉元医師への質問やご意見、治療の体験談など、歯に関するお手紙を募集しています。新聞に掲載させていただいた方には、香川で育った杉元医師オススメの半生うどん「かな泉」の鎌田醤油のうどん醤油付き「ぶっかけうどん」を進呈します。ふるって応募ください!

▲「(株)うどんの庄 かな泉」
<http://www.kanaizumi.co.jp/>

[応募方法]

お手紙やお葉書に、氏名・年齢・性別・電話番号・ご住所を明記の上、医院のポストに直接投函いただくか、必要分の切手を貼ってご郵送ください。書式や文字量は自由です（作文のみ、800～1200文字の文章量）。匿名希望の場合は、「匿名希望」とご明記ください。

※個人情報保護法に則り、患者さまからご提供いただいた情報はこちらで責任を持って管理させていただきます。ご掲載させていただく際、内容は変えませんが、一部文章を変更させていただきます。ご了承ください。また、お送りいただいたお手紙やお葉書はお返しできませんので、ご注意くださいませ。

杉元が答える

Communication

院内感染についてのニュースをテレビなどで見かけますが、スギモト歯科医院ではどのような感染対策をされていますか?

京都府在住 / M・R(32歳)

衛生面は「自分の家族でも安心して治療できる環境」をモットーに、特に気を配るようにしています。まず、待合室には空気清浄機を置いています。さらに、診察室では、治療に用いる器具などを洗浄・滅菌するシステムを導入しています。これは、大学病院などでも使われているもので、器具を洗浄機や滅菌機に入れている間はほかの器具を使わなければならないため、ほかの洗浄方法よりもコストがかかりますが「安心して治療できる、安心して治療を受けていただくこと」がなにより肝心だと思っていますので、今後も万全の環境を維持していきたいと考えています。



▲洗浄システムと小型高圧蒸気滅菌器。

お手洗いのドアの開閉がしづらいのですが、なんとかしてもらえませんか?

京都府在住 / S・N(28歳)

皆様にご協力をお願いしているアンケートで、ほかの患者さまからも似たようなご意見をいただいております。早速、ドアをスムーズに開閉できるように新たに取り付けをおこないました。ご指摘、ありがとうございました。また、長期間ご迷惑をおかけし、申しわけありませんでした。

<http://sugimoto-dc.jp/>

医療法人 幸加会

スギモト歯科医院

〈 電 話 〉 0120-76-3718 (0774-64-2424)

〈 F A X 〉 0774-64-2266

〈 診 療 時 間 〉

(月～金) 10:00～13:00 / 14:00～20:00

(土) 10:00～13:00 / 14:00～18:00

〈 休 診 〉 日曜日、祝祭日

〈 主 な 設 備 〉 完全個室、オペ室完備、駐車場

〒610-0331 京田辺市田辺中央 1-2-11 アトリオパーク 2F

